

FPGAのベンチャー 米エフィニックス 日本でシェア拡大を目指す

大手が市場のほとん

ば8割を占めるとされ、同社は2012年設立、FPGAで存在感を示し始めているのが、スウェーデンを本拠地とする。開発・ファブレーションの特許技術を持つ。開発拠点を米、カナダ、メキシコ、インドネシアに構え、各州のベンチャー、E国に営業拠点を置き、finix(エフィニックス)・サミー・チ上。20年以降、年4倍の成長を遂げた。前後のペースで成長し、電波新聞の取材で、日本市場でのシェア拡大を目指すほか、ライオンFPGA、来年には次世代の製品「タイタニウムFPGA」を投入する方針を明らかにしている。



社長兼CEO
チャン・ロジック
スタム・ロジック

独自の特許技術に強み

来年には次世代製品を投入

ク市場(モバイル、IoT、コンシューマ)で、産業機器、医療機器など)だけでなく、製造業の生産工程に「エッジ・コンピューティング」ハードウェア・アクセラレーションなど、小規模で低コストな投資が必要とされている。その中で、大手のFPGA製品は複雑なモデルに投資をしながらも、柔軟性があり、柔軟性がある。大きな追加的投資をしながらも、柔軟性がある。大きな追加的投資をしながらも、柔軟性がある。

適用を訴求する。特に「日本は2023年まで最も急速に成長している市場の一つ」と浸透に意欲を示す。コストをかけて柔軟性を見込んでいる。特に、

の多いデバイスにカ

スタマイズする傾向が

あり「それに比べ、私

たちのテクノロジは

汎用性があり、柔軟性

がある。大きな追加的

投資をしながらも、

柔軟性がある。大きな

追加的投資をしながら

も、柔軟性がある。



タイタニウムFPGA

近いうちの上場も見込まれる同社は、日本では加賀デバイス(東京都千代田区)と販売代理契約を結ぶなど、さらに拡大を図っている。

日本市場をはじめ、車載やVR(仮想現実)のような先端技術で「日本は有利な位置にいる」とみる。画像処理や産機に

国内大手が開発するボードにも使われるなど、画像処理や産機な

加賀電子グループの営業力や技術力、多様な

領域に事業展開する綿

合力を活用して支援し

ている。